

地域の仲間と、
共に学び、共に生きる

『共生コース』 開設の取組

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

ひなたのつどい

「取組推進校発表」



宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校



宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

- 西臼杵唯一の特別支援学校（分校）
- 対象障がい種：知的障がい、肢体不自由
- 高等部のみ設置（2年生：1名、3年生：5名）
- 平成20年度 高千穂高等学校の敷地内に開校



宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

教育目標

「心豊かでたくましく地域社会で生き抜く力の育成」

- 少人数編成を生かし、個に応じた細かく且つ柔軟な教育実践を行うとともに、地域の特色を生かした交流及び共同学習を展開することにより、地域社会で生き抜く力を育てる。

高千穂高等学校と年間70～80時間の交流及び共同学習を実施



田植え交流



神舞祭(じんぶさい) [文化の部]



神舞祭(じんぶさい) [体育の部]



畜産交流



世界農業遺産調べ学習

9
2021
No.660

広
報

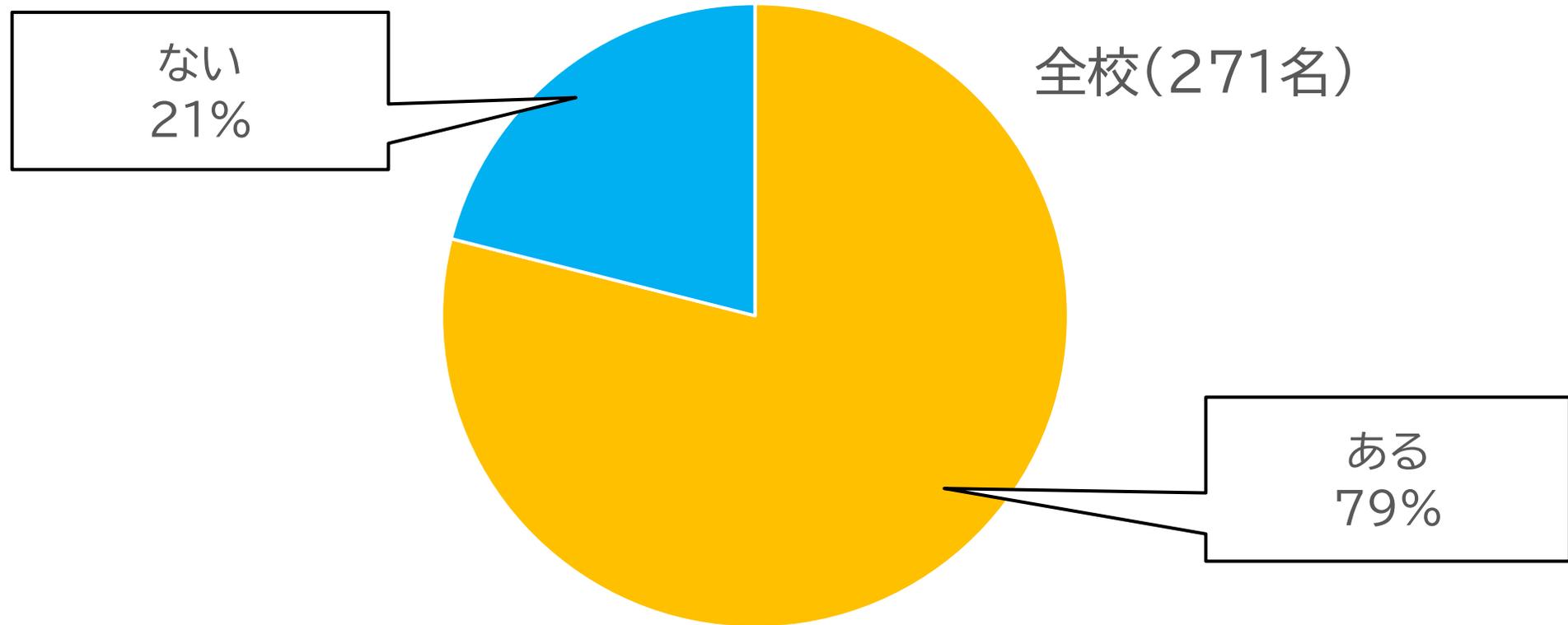
高 千 穂

力を合わせ高千穂の空から世界へと ~共に前へ~



パラリンピック共同採火

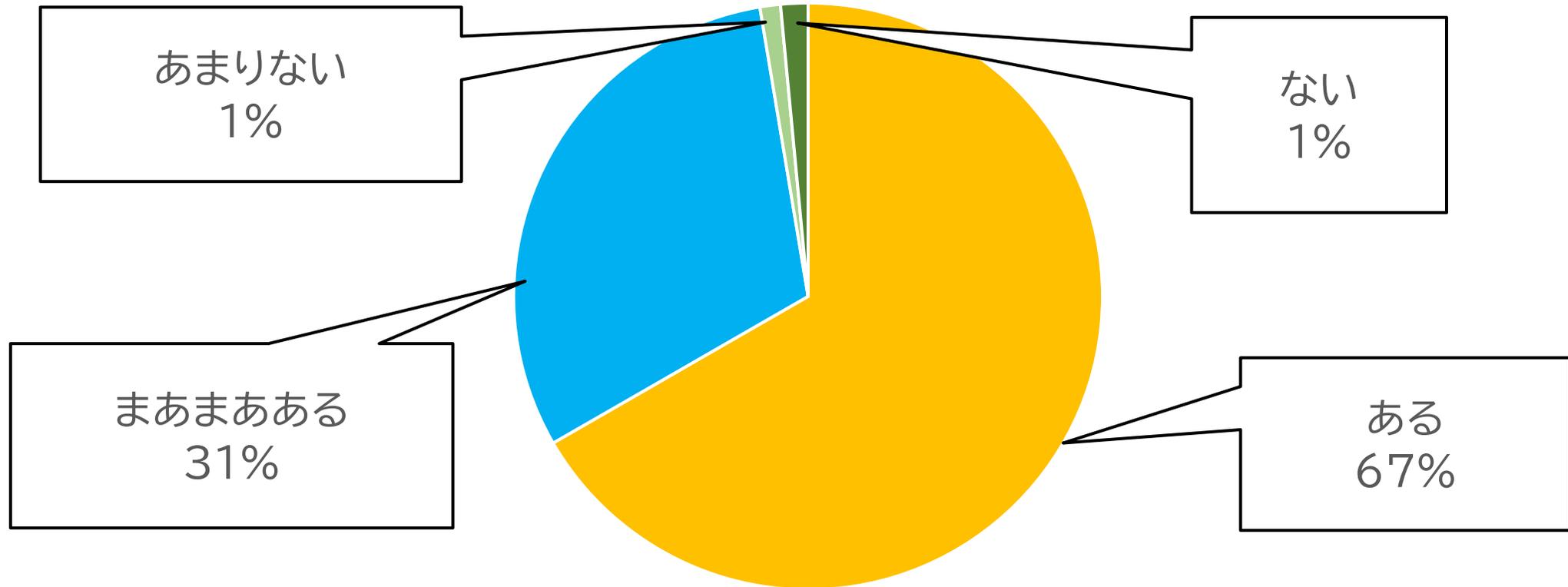
入学後、延岡しろやま支援学校高千穂校の生徒と挨拶や会話をしたことがありますか。



○ 全校生徒の8割近い生徒が挨拶や会話を交わしている。日常的に交流が行えているといえる。

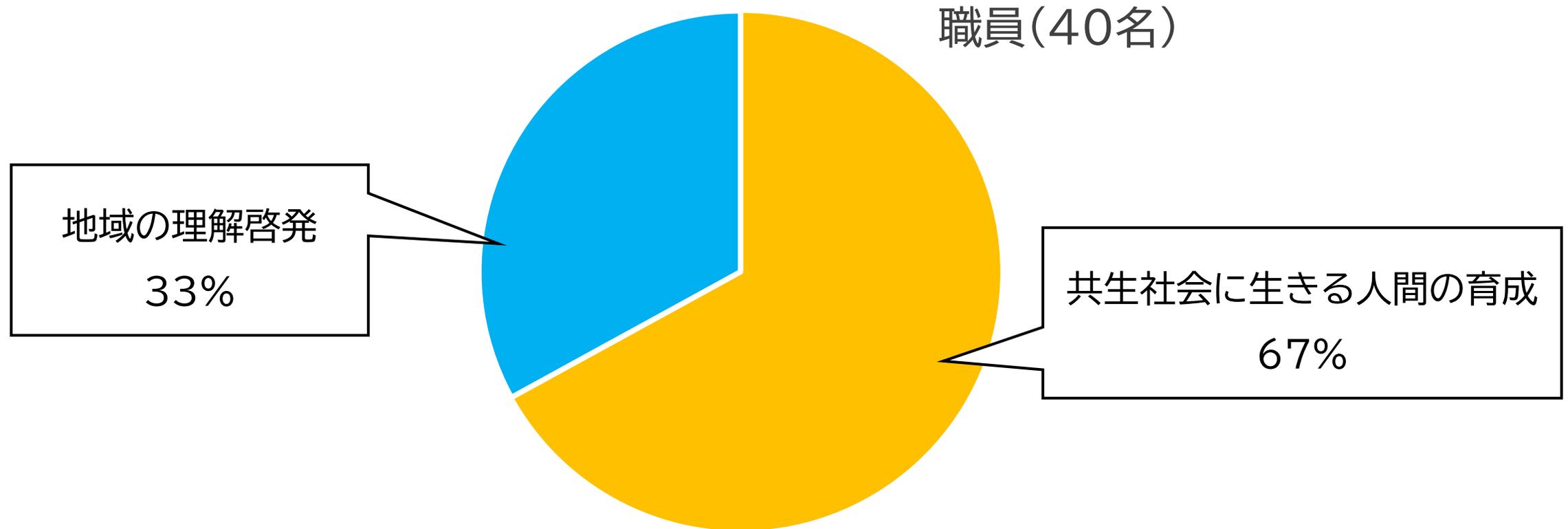
延岡しろやま高千穂校との交流は意義があると思いますか。

全校(271名)



○ 3カ年の交流を積み重ねることを通して、多様性や共生社会について、より深く考えているのではないかと考える。

高千穂高校にとって、どのような意義があると思いますか。



○ 生徒たちが、地域社会で共に豊かに暮らせるよう、関係機関との連携を一層深め、センター的機能の充実を図っていく。また、積極的な情報発信を行い、地域への啓発も進めていく。

宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

令和5年度「共生コース」設置に向けて

地域の仲間と共に学ぶ、特色あるカリキュラム

高千穂高等学校と年間70～80時間の交流及び共同学習を実施



県指定研究『夢×人×地域「社会とつながる特別支援学校」推進事業』

令和元年度～3年度「共生コース」の実践研究



令和4年度 開設準備、地域への啓発・共生社会実現のメッセージ発信

『共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業』



共生コース開設セレモニーの実施

宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

「共生コース」開設セレモニー

- しろやま高千穂校生と高千穂高校生（神楽保存会）
共同神楽演舞
- しろやま高千穂校生・高千穂高校生（生徒会）
詩の朗読・共同手話歌披露
- 両校生徒代表のことば
- 「共生社会実現に向けての誓い」

宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

「共生コース」開設セレモニー

○ しろやま高千穂校生と高千穂高校生（神楽保存会）
共同神楽演舞

○ しろやま高千穂校生・高千穂高校生（生徒会）
詩の朗読・共同手話歌披露

○ 両校生徒代表のことば

○ 「共生社会実現に向けての誓い」



高千穂高校神楽保存会・しろやま高千穂校生





下川登神楽保存会 会長 佐藤 英記 氏

地域で神楽保存に取り組んでいる。ブラジルや国立能楽堂など、各地で神楽を披露している。高千穂高校神楽保存会の指導も行っている。









共生コース開設セレモニー（12月20日：火）

宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

「共生コース」開設セレモニー（来賓）

- 県教育委員会（生涯学習課、特別支援教育課）
- 高千穂町・五ヶ瀬町・日之影町 教育長
- 両校PTA代表、学校評議員・学校運営協議会代表
- 西臼杵小中学校校長会 会長
- 西臼杵子ども・障がい者ネットワークセンター長
- 西臼杵地域障がい者自立支援協議会 会長
- 下川登神楽保存会 会長

地域の新聞、西臼杵各町の広報担当に取材依頼



地域へ啓発



両校 校長 挨拶



佐藤氏による神楽紹介



神樂共同演舞

「共生コース」開設セレモニー



神楽共同演舞

成果

- 交流及び共同学習に、生涯学習支援の観点も加えることができ、充実した教育活動を行うことができた。
- 地域でともに学ぶ仲間と一緒に地域の伝統文化を学ぶことができた。このことは、障がいのある、ないに関わらず、共に学び続ける生涯学習につながる貴重な経験になった。
- 就学期から卒業後にわたる、共生社会実現へ向けての生涯学習支援の重要性をあらためて知ることができた。

課題

- 社会自立のために、就労への支援に加え、余暇や生涯にわたる学びへの支援も保障する必要がある。生涯学習に関する地域の情報を収集整理し、情報提供を行っていく必要がある。
- 地域の生涯学習に携わる方々への啓発もあわせて行っていく必要がある。このことが、障がい者の充実した社会参加・生活につながり、さらに共に学び、共に生きる社会へとつながっていくと考える。

御静聴ありがとうございました

地域の仲間と、
共に学び、共に生きる

『共生コース』 開設の取組

共に学び、生きる共生社会コンファレンス

ひなたのつどい

「取組推進校発表」



宮崎県立延岡しろやま支援学校高千穂校

